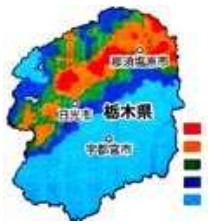
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.04.20//no.26

日光市２４％　放射線量減少 !?
簡単に放射能は減らない！！
文科省では測定値に 1.2 倍？！



赤10～30万,黄 6～10万
緑 3～6 万、紺 1～3万
水色～1万　ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

〈放射線量数値/毎時マイクロシーベルト〉

17日、マスコミは、日光市の「放射線量が24％減少」との見出しで、2～3月に全市の放射線量測定結果を1カ月以上たって公表です。(昨年10月の測定結果は、2週間後発表) それも、3月30日発表した除染計画と一対の測定結果です。本来、放射能の危険から市民の安全･健康を守る姿勢なら1日でも早く市民に知らせるべきですが、日光市は、常に観光優先で「安全･安心」をアピールするための不可解な対応です。

そして、今回の除染対象の 0.23 以上の地点は、149 か所 (29%) で、0.23 未満は、223 地点から 317 地点と4割以上増えたとのことです。

さて、昨年 10 月から約 5 カ月後、今回の放射線量が 24%減少した要因は「時間的経過が主な要因、その他、風雨による流出など」といいます。これ誤魔化しです。放射能は簡単に減少しません。セシウム 134 半減期/約 2 年、セシウム 137 半減期/約 30 年で、ほぼ同比率の汚染と考えられています。全セシウムの線量は、半年で約 7%しか減少しません。ですから、道路の周辺の線量を知るためには補正が必要です。

⊛　＊　⊛

〈文部科学省 2012.03.21/報道発表/走行サーベイによる測定結果/抜粋〉では 6 カ月後の道路の測定で「平均で 30%近く空間線量率が減少、セシウムの半減期に起因する物理的減衰は 10%程度。降雨等の自然環境の要因や車の走行で放射性物質が減少したと推定」(疑問-1　30%⇨26～27%) (疑問-2　10%程度⇨約 7%)

「道路周辺での空間線量率は、道路上の空間線量と比較して、平均で1.2倍程度高く、平均値を1.2倍した評価値を用いた」(疑問-3　1.2 倍⇨1.2 倍以上)

このことからも、日光市の測定結果を補正すると、少なくとも 0.19 以上 0.23 未満の地点 66 カ所は、たとえば 1.2 倍することで、0.23 以上の地点に入ることになります。

0.23 以上の地点は、149 か所 (29%) ➡215 カ所 (42%) となります。

風が吹くときは
マスクをしよう!!
布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげて吸い込み、内部被ばくの危険が高まります。布団・洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッとの注意の心がけを！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。

❖年1mSv/時 0.114μSv/公衆被ばく限度基準/ICRP
*内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、* など〉
❑栃木県原発崩壊前//0.038～0.044μSv/h❑

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上～未満		
0.1 未満	1 ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155 ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187 ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152 ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30 ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10 ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2 ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1 ヶ所	0.2%

〈News〉日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光観光安全宣言〉

❑日光市、2～3月に全市線量測定「放射線量平均 24%減」と不可解な公表！
❑「春告げる弥生祭-日光二荒山」放射線量 0.22μSv/h (日光市) の神橋で安全アピール
❑食品検査-放射性セシウム新基準超え/福島 63 件、栃木 40 件、茨城 29 件･･･出荷停止〈原木シイタケ〉栃木 9 市 10 町、茨城 5 市･･･〈2012.04.16/下野〉
❑中禅寺湖、「ヒメマスなどから 100Bq/kgを超える放射性物質が検出。しかし、キャッチアンドリリースで解禁」〈2012.04.17/下野〉とは！日光は放射能汚染でも安全アピール

〈放射能の危険!〉 見たり聞いたり話したり

❑ シイタケが出たということは？
他だって、ゼロじゃないでしょうネ。知らないでシイタケ買って食べてました。そういう汚染、知らせてほしいです。

❑ 去年の春に1年分の米を買いだめ
そろそろなくなるので、安全なお米、さがして買います。

❑ 野菜類は遠いところのものを選んで
食べたくても、栃木県のものより、食べないほうを選びます。

❑ 政府、県、市の言うこと信用できない
スーパーの産地表示も本当かなと疑いたくなっちゃいますね。しかし、食べないわけ行かないし、心配です。

❑ 直売所は、測定やっているのかな？
気楽に聞ける雰囲気ないですネ。言えば、何言われるかわからない。

❑ 以前から農協の直売所利用
放射能問題になってからは心配しながら買っています。やっぱり「安全とか」「測定してますか」なんて聞けないでしょう。スーパーでなら、なるべく西の遠いものがあれば買うけどね。

❑ 直売所、スーパーでも検査は？
していないんじゃないの。いつも、後から問題になって、販売停止になるんだから。日光なんて、放射能問題にしていないから、測ろうとしないんじゃない。

❖チラシ･バックナンバー見られます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288･26･0130//nairamdal-1871@dream.jp

放射能汚染の中で暮らす子どもたちを憂う －2

ぜひ ドキュメンタリー「チェルノブイリ・ハート」を!

ドイツから「ふるさと日光へ」 Baum

小中学校の給食はどうなのでしょうか。測定はなされているようですが、最新の注意をして全ての給食の測定をしていただきたいものです。それから、日光の子どもたちに一定期間、放射線量をどれだけ受けるのか、線量計を持たせるとも聞きました。これではまるで人体実験です･･･。本当に恐ろしいことになっています。

また現在、新聞、メディアが統制、報道規制されています。まるで戦時中です。先進国の日本がここまで報道規制され、情報も隠蔽し、国民をマインドコントロールしていることに対し、世界からは冷たい目で見られています。日本の信頼はがた落ちです。「政府が言っているから安全じゃないか」とか、「電力が足りないと言っているんだから、電気料金が上がったって、原発が再稼動したって、汚染瓦礫が拡散したって仕方ないじゃないか。痛み分けだ。」、と普通に思うことも、テレビや新聞から情報を得ている国民としては当たり前だと思います。

でも、真実を見てください。真実を伝えるジャーナリストや学者達は、今ではインターネットやある特定の雑誌でしか情報を発信できません。
そんな中、日光の子供たちを守るために頑張っている方々がいらっしゃることは本当にありがたく、なにかお役に立てることがあれば是非させていただきたいと思いました。

チラシの他にどんな活動をされているのでしょうか。日光のお母さん方に放射能を正しく理解してもらうためになにかされていますか？

去年、映画で「チェルノブイリ・ハート」というドキュメンタリーが上映されました。一時期 Youtube で見られたのですが、すぐに削除されました。現在のチェルノブイリの子供達の様子です。あまりにもショックな内容ですが、本当に他人事ではないと思わされます。数年後の日光の姿にならないようにしなければと強く思います。

いろいろと大変かと思われますが、是非この会を継続してください。なにかあったら是非協力させていただければ幸いです。

遠くのドイツから応援しております。 ®〈「チェルノブイリ・ハート」相談ください 26-0130〉

日光市は放射能汚染地帯！ 〈雨どい地上 1cm〉-2 ❑森友❑ (2～3 月)

＊Aさん宅　毎時 2．326マイクロシーベルト　＊Cさん宅　2．513μSv/h
＊Bさん宅　2．242μSv/h　＊Dさん宅　2．614μSv/h

脱原発１０００万人署名に協力ください!!

「原発」再稼働を許さないために！5月末まで延長！(3月27日現在550万人以上)

放射能から子どもを守る

５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪
14
病院ではルクセルバッチ3個？

○×市在住/仮名 ナナオ

放射線を取り扱っている医者が、放射線を否定したら商売にならないんです！！！自分のやっていることを『全否定』することになってしまうんです。

病院では、もっともっと高い線量を取り扱っています。

ＣＴやペット、放射線治療や核医学診断など、それはそれは、凄い線量です。

わたしも、大学病院の放射線部に勤務していました。毎日、毎日、業務で、ものすごい線量の放射線を浴びていました。

やっぱり勤務中は、ルクセルバッチといって個人の線量を管理するバッチを常時付けていました。

女性は、生殖器（卵巣）が腹部にあるので、腹部にある白衣のポケットに一つ、血管造影中に看護する時には、手の指に指輪になっているルクセルバッチを一つ、もう一つは、水晶体（目）や首の甲状腺付近と言うことで、白衣の襟に一つと、一人に3個、つけるようになっています。

確かに医療従事者の被曝は凄いです。わたしも当時の1カ月の被曝量の書いた紙（毎月ルクセルバッチを回収し、個人線量を出します）を久しぶりに引っ張り出して見てみたら、2か3ミリ Sv くらいありました。

きっと、医者なんて（失礼）そんなものです。

★医療であまりにも高い線量のを取り扱っているので、
あのパパさんの話を聞いて、「低いじゃん」くらいで思っているんだと思います。
医者と20年近く仕事をしていて、だいたい考えていることはわかります。

〈次号に、つづく〉

放射能は危険　**放射能汚染地帯で生活続けるチエ**

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエ。

❑放射能の危険から子どもを守る//高い線量の場所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」など考える。相談体制を検討。行政の支援要求。

❑うららかな春。花壇、家庭菜園、楽しみですが土は汚染されており、避けたいです。
もし、やるとすれば、手袋、マスクをしてください。終わった後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。服や靴の土･ほこりなどを取ってください。